

平成 22 年度当初予算 重点的な取組別概要
< 重点事業 >

元気 6 : 東紀州地域の観光や産業の振興と地域づくりによる活性化 (担当部 : 政策部)

< 重点事業の目標 >

東紀州地域が一体となって観光や産業の振興と地域づくりなどを総合的に推進していく「東紀州観光まちづくり公社」を設立するなど、熊野古道センターや 2009 年（平成 21 年）オープン予定の紀南中核的交流施設などの機能を最大限に生かしつつ、東紀州地域の活性化に向けた取組を進めます。

さらには、地域の基幹産業であるかんきつ農業、水産業をはじめとする一次産業の活性化に向けて、次代の担い手育成や生産基盤の整備、高品質・高付加価値化をはかるための試験研究などに取り組みます。

< 構成事業（担当部） >

- (1) 東紀州観光まちづくり推進事業（政策部）
 - (2) 熊野古道センター運営事業（政策部）
 - (3) 中核的交流施設整備事業（政策部）
 - (4) 県営中山間地域総合整備事業（農水商工部）
 - (5) 紀南版元気なみかんの里創生事業（農水商工部）
 - (6) 基幹農道整備事業（農水商工部）
 - (7) 畑地帯総合農地整備事業（農水商工部）
 - (8) 東紀州地域の水産業活性化対策事業（農水商工部）
 - (9) 養殖基地機能向上事業（農水商工部）
 - (10) 熊野灘海域浮魚礁設置事業（農水商工部）
 - (11) 農林水産物主産品高品質化技術開発事業（環境森林部、農水商工部）
- (6)は、事業の名称を変更しています。

< 重点事業の事業費 >

（単位：千円）

	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
策定時の見込額 1	892,436	1,428,000	1,474,000	1,449,000
予算額等 2	1,108,586	902,943	1,916,832 (402,280)	1,431,363

1 第二次戦略計画策定時における計画記載額

2 H19,H20 年度は決算額、H21 年度は予算現額、H22 年度は予算要求額。21 年度の下段括弧書きは 20 年度からの繰越額で予算現額の内数。

< 重点事業の数値目標 >

数値目標項目		H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度
東紀州地域における 推定観光消費総額指数	目標値	-	103	105	108	110
	実績値	100	103	95		

東紀州地域の産業振興の度合いを測るため、そのけん引産業となる観光産業の進展状況を表すものとして、東紀州地域への観光入込客数と一人あたりの平均観光消費額の積を「推定観光消費総額」と定義づけ、平成 18 年の当該数値を 100 として、その増減について指数化したもの。

< 構成事業の目標 >

事業目標項目		H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度
(1)東紀州観光まちづくり公社がまちづくりなどの取組に対し、参画した件数(累計)	目標値	-	3件	4件	5件	5件
	実績値	2件	3件	4件		
(2)来館者数	目標値	-	84千人	86千人	88千人	89千人
	実績値	-	124千人	91千人		
(3)施設利用者数	目標値	-	-	-	138千人	162千人
	実績値	-	-	-		
(4)整備計画策定および整備地区数	目標値	-	1地区	2地区	2地区	2地区
	実績値	-	1地区	2地区		
(5)南紀みかんの三重ブランド規格構成率	目標値	-	24%	27%	33%	37%
	実績値	18%	24%	25%		
(6)新規供用延長	目標値	-	-	-	-	1.3km
	実績値	-	-	-		
(7)畑地かんがい面積(累計)	目標値	-	-	-	10ha	26ha
	実績値	-	-	-		
(8)事業実施地区数	目標値	-	6地区	6地区	6地区	6地区
	実績値	-	7地区	7地区		
(9)養殖施設機能向上率	目標値	-	78%	83%	92%	100%
	実績値	74%	78%	86%		
(10)浮魚礁設置数(累計)	目標値	-	2基	3基	4基	8基
	実績値	-	2基	3基		
(11)技術開発件数(累計)	目標値	-	2件	4件	6件	13件
	実績値	-	3件	5件		

< 進捗状況(現状と課題) >

- ・ 「東紀州観光まちづくり公社」では、三重県観光販売システムズと連携した熊野古道をはじめとする地域資源を活用した観光商品づくり、カルチャーセンターとの連携による講座開催、現地ツアーによるエコツーリズムの推進など、地域の宝を生かした滞在型・体験型の広域観光を推進するとともに、大都市圏での地域製品のPR、長期インターンシップ等、産業振興に取り組んでいます。今後とも観光振興、産業振興、まちづくりの面から、地域のコーディネーターとしての役割を果たしていく必要があります。
- ・ 熊野古道センターにおいては、熊野古道に残る多くの巨木を写真で紹介する企画展「熊野に巨樹あり」や、地域の食材を生かした料理教室、尾鷲ひのきを素材とした「ひのきアート教室」など、地域資源を生かした様々な事業を実施しています。また、世界遺産登録5周年を記念し、アスリートと熊野古道を歩くウォークや、JRとの共催による企画展「熊野へ結ぶ5本の道」などを展開しています。今後一層、市町や関係団体等と連携し、情報発信・集客交流の機能を高めていくことが必要です。
- ・ 東紀州地域の集客交流の拠点として整備を進めてきた紀南中核的交流施設「^{リソルト}皇創人熊野倶楽部」は、本年7月にオープンしました。今後、地域や他の施設等との連携が一層はかれるよう、市町と連携しながら支援を行っていくことが必要です。
- ・ 中山間地域の農業・農村の活性化をはかるため、総合的な基盤整備に取り組んでいます。

- ・ かんきつの高品質選果システムの評価と検証を行いながら、優良品種の導入等を進めるとともに、農道やかんがい施設などの生産基盤整備を進めています。また、新規就農希望者に対するサポート体制の充実をはかり、確実に就農へつなげていくよう取り組んでいます。
- ・ 地域特性を生かした持続的養殖の推進や経営安定に向けて、マハタの特産品化やマダイ養殖の「生産情報公表」JASの認証取得に向けたモデル的な取組を支援するとともに、養殖陸揚げ施設整備や浮魚礁の設置などに取り組んでいます。
- ・ かんきつ、尾鷲ヒノキ、マハタ・クエの高付加価値化等のための研究開発を進めており、生産者等へスムーズに技術移転を行うことが必要です。

<平成22年度の取組方向>

「東紀州観光まちづくり公社」の地域のコーディネーターとしての役割を強化し、地域資源を生かした滞在型・体験型観光の事業展開をはかるとともに、近隣の観光地等と連携し、集客交流の相乗効果を高めていきます。また、産業振興においては、地域資源を活用した製品・サービスの高付加価値化や販売促進を支援し、東紀州地域のブランド力強化をめざします。さらに、世界遺産登録5周年を契機に弾みをつけることができた「熊野古道を生かした地域づくり」を一層推進していくため、それぞれの地域で熊野古道をはじめとする地域資源を磨くとともに、地域の飲食店やお土産店、観光関係事業者を対象にした「おもてなし」セミナーの開催等、ホスピタリティの向上や質の高い受入体制の構築をはかっていきます。

熊野古道センターや紀南中核的交流施設を最大限に活用して集客交流につなげていくとともに、他県の施設や熊野古道の保存会等との連携を一層深め、東紀州地域の魅力の向上をはかっていきます。

活力ある農村づくりに向け、引き続き総合的な基盤整備を推進するとともに、かんがい施設や基幹農道の整備など果樹産地の活性化の取組を着実に進めていきます。

魚類養殖など水産業の振興や、農林水産物（かんきつ、尾鷲ヒノキ、マハタ・クエ）の高付加価値化のための研究開発などを引き続き推進します。

<主な事業>

東紀州観光まちづくり推進事業

【基本事業名：53301 持続可能な自立した地域の基盤づくりの推進】(事業(1))

予算額：(21) 20,884千円 (22) 20,884千円

事業概要：東紀州地域の観光振興、産業振興およびまちづくりを総合的に推進する「東紀州観光まちづくり公社」に対し、市町と連携して支援することにより東紀州地域の活性化を推進します。

熊野古道センター運営事業

【基本事業名：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】(事業(2))

予算額：(21) 63,936千円 (22) 71,945千円

事業概要：熊野古道センターにおいて、熊野古道の魅力を県内外に情報発信するとともに、地域内外の人びととの交流を促進するため、多様な主体との連携を密にしながら、さまざまな取組を行います。

中核的交流施設整備事業

【基本事業名：53302 地域の宝に気づき、守り、生かす集客交流の推進】(事業(3))

予算額：(21) 375,399千円 (22) 289,014千円

事業概要：紀南地域の振興をはかるため、紀南中核的交流施設を拠点とした集客交流の推進に向け、地元市町等と連携した取組を行います。

紀南版元気なみかんの里創生事業

【基本事業名：53303 地域資源を生かし、地域の底力を高める産業振興の推進】(事業(5))

予算額：(21) 5,526千円 (22) 4,974千円

事業概要：東紀州地域の重要な産品であるかんきつについて、その需要に応じた品質の果実を供給し、果樹産地の基盤を強化するとともに、担い手確保や地域の資源等を生かした産業観光の推進を支援することにより紀南地域の産業全体の活性化を促進します。

畑地帯総合農地整備事業

【基本事業名：22404 農業生産基盤の整備】(事業(7))

予算額：(21) 107,100千円 (22) 115,500千円

事業概要：東紀州地域の基幹産業であるかんきつの産地がめざす「自らが守る産地」「後継者が育つ園地づくり」「攻めの品種構成」の3つを実現するため、園地の用排水施設と農道の整備を実施します。これにより、生産費の低減と高品質みかんの生産を可能にし、生産性の向上と農業経営の安定をはかるとともに担い手の確保を推進します。

熊野灘海域浮魚礁設置事業【基本事業名：22603 水産生産基盤の整備】(事業(10))

予算額：(21) 150,000千円 (22) 150,000千円

事業概要：熊野灘海域において、浮魚礁を設置することによって、かつお等の回遊性魚類を滞留させ、漁業生産力の向上をはかるとともに、効率的に漁獲することによって労働力の軽減等をはかります。

マハタ、クエの種苗生産・養殖高度化技術開発事業

【基本事業名：22704 水産業を支える技術開発の推進】(事業(11))

予算額：(21) 6,528千円 (22) 5,875千円

事業概要：新しい養殖魚種「マハタ、クエ」を東紀州の地域ブランドとして定着させるため、高品質種苗の種苗生産技術の高度化とブランド力を高める養殖技術の開発を行います。